

親学 コラム

子どもに
「共感する」
ということ

小学校3年生のミホちゃん(仮名)とそのお母さんとの間にあったやりとりです。

ミホちゃんは、教室で友達と遊んでいるときに誤って花瓶を割ってしまい、担任の先生から教室で暴れてはいけないと注意されてしまいました。

ミホちゃんは、学校から帰ってくるなり「ただいま〜。今日花瓶を割っちゃって、先生に叱られちゃったの。」とあつけらかんとお母さんに話しました。

お母さんが「どうして割っちゃったの?」と尋ねると、ミホちゃんは友達と遊んでいた様子を話し始めました。それを聞いたお母さんは、友達と仲良しなのでとても嬉しいと思ったこと、でも暴れている場所ではなかったことと、ミホちゃんが大怪我をしてしまう可能性があり、大切なミホちゃんになにかあったらとても悲しいことを、ミホちゃんに話しました。

自分に都合の悪いことでも包み隠さず話すことは大人でも難しいことですが、それは子どもも同じです。でも、ミホちゃんは、学校で起きた出来事として、お母さんに話すことができています。それは、ミホちゃんにとって、安心して何でも話せるお母さんだからです。ミホちゃんのお母さんは、花瓶を割ってしまったというマイナスな結果になる前の友達と楽しく遊んでいたミホちゃんの気持ちや状況を肯定し、マイナスな結果を非難するのではなく、学校内のルールとお母さん自身の気持ちを伝えてこの事例のようなコミュニケーションを、ミホちゃんとの間で積み重ねてきたことが伺えます。

どのような状況であれ、子どもは子どもなりに何かを考えたり感じたりしており、その思いは本物ですから、その思いを汲み取った親自身がどのように感じたかを伝える=共感したことを言葉と態度で伝えるコミュニケーションが重要です。このようなコミュニケーションの積み重ねが親子関係を形づくっていきます。

次の日、ミホちゃんの連絡帳に、お母さんからの謝罪の言葉が書かれていたそうです。



「親学コラム」では、子どもとの関わり方など家庭教育に関する疑問にお答えします。ぜひ、ご質問をお寄せください。

情報誌作成に参加して

有意義な意見交換ができ、改めて人との関わりの中で、悩みも楽しめるのだと感じました。(みーちゃんママ)

いろいろなお話の中で幅広く学びがあり、また楽しく有意義な時間を過ごすことができました。(ペンちゃん)

心に響く素敵な「子育て」を皆さんの実体験から知ることができる貴重な時間になりました。(けいちゃん)



「あなたも?私もよ。」の共感から、素敵なアイデアや情報が出され、ワクワクしました。(ワダさん)

参加されたメンバーの方と出逢えたことに感謝です。子育てが更に楽しいものになりました。(さっちゃん)

人は人と向きあうことでわかりあえるし成長できるんだ♥と再認識した充実の一時でした。(みさちゃん)

子育ての実体験や地元の教育が知れ、プレママの私は興味深く楽しい時間、出会いです。(よねちゃん)



普段、何気なくしている子育てですが、改めてじっくり考える、よい機会を頂きました。(MIYA mama)

いろいろな年齢の方々とお話が出来、これからも子どもと一緒に育っていきけたらなあと思っています。(けびこ)

いつもは怒ってばかりなのですが、参加しているうちにわが子の良いところを発見!新鮮でした!(ナンダ子)

次回の親学情報誌『KODOMO LOOK』は、親子で一緒に学んだり、楽しんだりすることのできる講座や催し物の情報をお届けします。

うつのみや親学情報誌

KODOMO LOOK vol.5

発行：平成21年2月

〈問合せ先〉 宇都宮市教育委員会生涯学習課

〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5

TEL(028)632-2674 FAX(028)632-2675

URL <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

※この情報誌は、限りある地球の資源保全のため再生紙を使用しています。